県立学校における「地域と共にある学校づくり」研修会　実施報告

１　日　時　　平成２７年６月２２日（月）１４：００～１６：３０
２　会　場　　県立教育研究所（磯城郡 田原本町秦庄 22-1）
３　参加者　　４３人（高等学校３６人、特別支援学校７人）
４　内　容　　１４：００～１４：１０　開会挨拶
　　１４：１０～１４：２５　事業説明
　　人権・地域教育課　地域教育係　岡田　浩幸
　　１４：２５～１５：５５　講演
　　「『地域と共にある学校づくり』がもたらす教育力」
　　早稲田大学文学学術院　教授　増山　均
　　１５：５５～１６：２５　質疑応答
　　１５：５５～１６：３０　閉会挨拶

５　講演概要

①日本の子育て・教育にとっての原理的問題
　学力とは豊かな想像力を身につけることである。想像力には、「はげみ」が生み出す推理力・想像力だけでなく「ゆとり」が醸し出す空想力・想像力がある。ゆとりの中で想像力を伸長することが重要である。

②歴史からみる「地域と学校」の関係
　明治以降、地域と学校は対立関係にあった。しかし高度成長期を迎えると地域の崩壊や変貌が始まり、「地域に根ざす教育」「地域の教育力」が探求されるようになる。
③「地域の教育力」をめぐる研究から学ぶ
　生活圏には人間関係を育てていく、子どもの発達環境としての地域の性質を含み、その生活圏は「地域と共にある学校づくり」と密接な関係があるといえる。地域の教育力については、教育社会学者の松原治郎、社会教育学者の藤岡貞彦や佐藤一子など諸研究がある。
④いまなぜ「地域と共にある学校づくり」なのか
　子どもたちが主体的にものごとを判断し、自らの人生を切り拓く力を身につけることは、学校の教育力のみで実現するのは難しく、地域団体・住民、企業・労働現場、市民・ＮＰＯ活動等との連携が不可欠になっている。
⑤「地域と共にある学校づくり」が生み出す活力
　地域に「活力」を生み出すためには、地域の潜在力の発見、地域の人々の主体性、子どもを中心に据えること、人材の発見、成果の共有が必要である。

６　質疑応答

①この事業において、中心で進めてきた人が変わった時、その後も上手く継続するにはどうすればいいか。
（答）人が変われば、組織が変わるのは当然。だからこそ、公共的組織をつくり、続けていくしかない。
②体験を数回した程度では、生徒たちは本質を理解できないのではないか。
（答）イベントはむだではない。その経験を将来活用してもらうことも期待して、体験活動はとても大切にしたい。

７　感想

・　地域と学校の関係・歴史等の流れが非常に理解できた。今後も地域と共にある学校づくりに、力を入れていきたいと思った。「学校応援団としての地域」「地域応援団としての学校」になるように頑張っていきたい。
・　もう少し具体的な事例を入れた話も聞きたかった。